

第163回企画展

飛鳥と山海

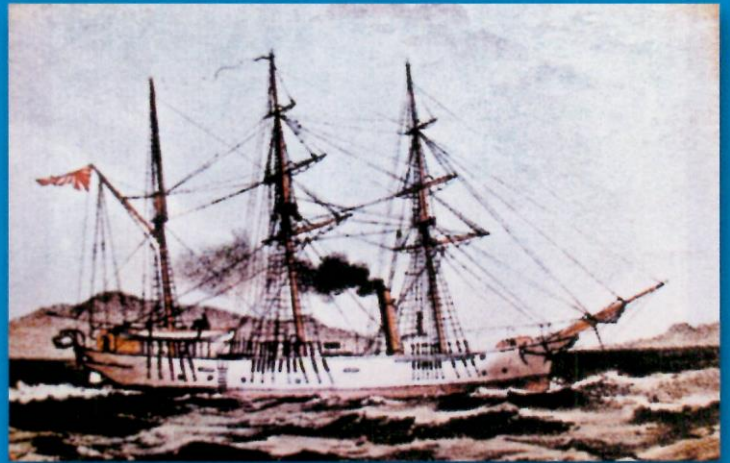
歴史と人々の生活

戊辰戦争の荒波 長崎丸座礁

（長崎丸・千代田形艦）
は庄内應援の命を受けて東名濱を抜錨し、同月七日庄内領酒田沖に着いた、十月二十三日飛鳥に猛烈なる東風吹き起り、夜に入りて益々激しくなった、勝浦碇泊中の二艦は次第に岸に吹寄せられ…

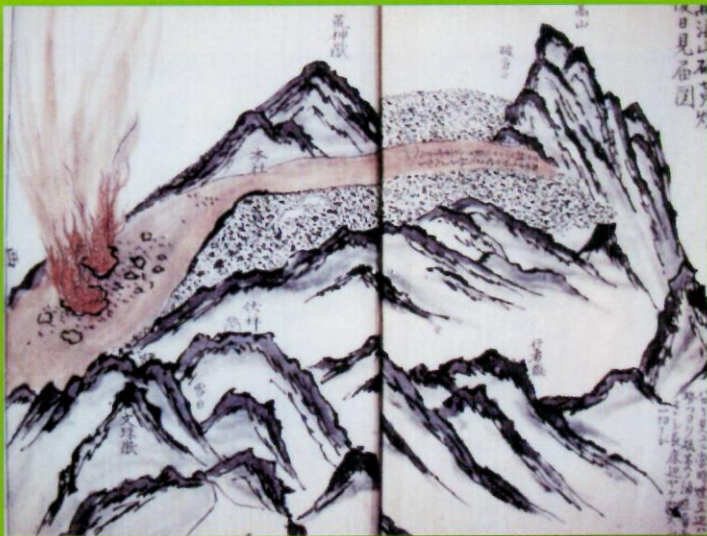
阿部正己

『飛鳥史』より



長崎丸と同型艦

平成22年6月17日(木)～8月1日(日)



鳥海山硫黄焼「大泉叢誌」

鳥海山が焼けた 享和の大噴火

強力四、五人を登山させたところ、荒神ヶ岳付近の七、八カ所から煙が立ち上がっており、御本社並びに長床などは焼失して見えない。煙気が盛んに立ち上がり、近づくことはできない。行者岳から遠見して帰った。

「飽海郡誌」より

SAKATA CITY MUSEUM
酒田市立資料館

第163回企画展

飛島と 鳥海山

歴史と人々の生活
—開催にあたって—

県内唯一の離島である飛島は周囲10.2km、面積2.36平方kmの小さな島ですがその歴史は古く、縄文時代まで遡ることができます。また、江戸時代は西廻り航路の避難港や風待ちの湊として賑わい、戊辰戦争では庄内藩の支援に来た幕府軍艦、長崎丸二番が座礁するなど歴史的にも興味深い島です。民俗学的に見ても海に囲まれ、海に支えられてきた飛島ならではの風俗や習慣があります。

一方、鳥海山は古くから大物忌神として崇められ、天変地異があるたびに神階を上げてきました。その秀麗な姿からは想像できない噴火の歴史があり、幾度となく災いをもたらしていますが、山麓に住む人々に多くの恵みを与えている山でもあります。

本企画展では飛島と鳥海山の歴史と、そこで暮らす人々の生活や信仰の他に飛島と鳥海山とのかかわりについても取り上げました。



飛島婦人消防隊半纏 資料館蔵



鳥海山張抜模型(市有形文化財) 資料館蔵



飛島婦人消防隊写真



鳥海山八嶋境論御裁許墨引図 光丘文庫蔵

資料提供及び協力者

久松龍子氏 岩田明氏 堀寿輝氏 阿部辰修氏 佐藤三千雄氏
兵藤光昭氏 池田政之氏
鳥海山大物忌神社 一条八幡宮 青原寺
庄内支庁建設部港湾事務所 鶴岡市郷土資料館 酒田市立光丘文庫
酒田市とびしま総合センター

ギャラリートークの開催

| | |
|-----|----------------------|
| 日 時 | 6月26日(土) 午後2時~3時30分 |
| 内 容 | 『鳥海山噴火の歴史』 |
| 講 師 | 土岐田正勝氏 (酒田民俗学会会長) |
| 会 場 | 資料館1階 参加費 入館料として100円 |



鳥海山・飛島火合せ神事(飛島)

次回企画展

「戦争と市民生活」

平成22年8月5日(木)
~9月5日(日)

| | |
|------|--------------------------------------|
| 開館時間 | 午前9時~午後4時30分 |
| 休館日 | 期間中無休 |
| 料 金 | 一般100円 小学生~大学生50円 (土・日曜日は小・中学生無料) |

酒田市立資料館

酒田市一番町8番16号 TEL 0234-24-6544
e-mail:sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp